

平成23年度病害虫発生予察注意報第1号

平成23年6月28日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

6月下旬現在、県内全域のブドウにべと病が多発している。今後、梅雨期間中の連続降雨による発病の増加が予想されるため、防除を徹底する必要がある。

病害虫名：ブドウべと病

- 1 対象作物 ブドウ
- 2 品種 全品種
- 3 発生地域 県内全域
- 4 発生量 多い

5 注意報発令の根拠

- (1) 5月下旬～6月中旬の降雨により好適な条件が続いたため、現地ほ場におけるブドウべと病の発生量は多く推移している。
- (2) 発病部位は葉にとどまらず、果実にも広がっている。
- (3) 気象予報(6月24日付)によると、梅雨前線が山陰沖に停滞し、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (4) 本病は感染後、発病までの潜伏期間が7日前後であり、今後さらに発病の増加が懸念される。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 発病した葉や果実は伝染源となるため、できるだけ取り除き、園外に持ち出し処分する。
- (2) 誘引や摘心などにより、風通しのよい樹形にする。
- (3) 薬剤の散布は、園の周辺部や枝葉が混み合ったところなどにかけるむらが出ないように丁寧に散布する。特にハウス栽培では、谷間やビニールのつなぎ目の、雨水の流れ込む部分に発病が多いことから、防除の際はこの部分の防除を徹底する。
- (4) 薬剤は、ICボルドー48Qの50倍液、ストロビードライフフロアブル2,000倍液、アミスター10フロアブル1,000倍液、ランマンフロアブル2,000倍液、ホライズンドライフフロアブル2,500倍液などを使用する。なお、ストロビルリン系薬剤(ストロビードライフフロアブル、アミスター10フロアブル)の散布にあたっては、薬剤耐性菌の出現を回避するため、使用回数は年2回以内とし、連用は避ける。
- (5) 農薬を使用する際は、果実の果粉溶脱及び収穫前使用日数に注意して使用する。

表1 主な殺菌剤(ブドウべと病対象)の使用基準

薬剤名	有効成分	希釈倍率	使用時期 (収穫前日数)	本剤使用回数
ICボルドー48Q	塩基性硫酸銅(31.2%)	25～50	-	-
ストロビードライフフロアブル	クレソキシムメチル(47.0%)	2,000～3,000	14日前まで	3
アミスター10フロアブル	アゾキシストロピン(10.0%)	1,000	30日前まで	3
ランマンフロアブル	シアゾファミド(9.4%)	1,000～2,000	14日前まで	3
ホライズンドライフフロアブル	シモキサニル(30.0%) フェモキサドン(22.5%)	2,500～5,000	21日前まで	3